

「海藻おしば」の作り方

じゅんび 準備から作り方、出来上がった作品の保存法までを、イラストを使ってわかりやすく説明します。

① 採集



春の海が荒れたあとの浜には、ゴミのほかに海藻がたくさん打ち上げられていますが、漂着した海藻の中から緑色や褐色のほか、深い所に生えていた美しい紅色の種類も見つけることができます。

拾い集めた海藻は、むれないように網袋に入れるか、水を切ってポリ袋やバケツに入れ太陽光線にあてないようにして運ぶことが必要です。

ポイント

時期 / 2月～4月頃が最適

対象 / 浜に流れ着いた海藻

ヒント / 干潮の時を狙って

② 保存（短期冷蔵・長期冷凍）



1～2日後に海藻を使う場合は水道水で洗わず、海水をよく切ってからポリ袋に入れ、空気でふくらませながら輪ゴムで閉めて、冷蔵庫に入れる。

長期間保存した後、海藻を使う場合には、海水か水道水で海藻に着いたゴミや砂を落とし、小さなポリ袋に小分けして入れ、中の水と空気をしぼり出しながら輪ゴムで閉めて、冷凍庫に入れます。

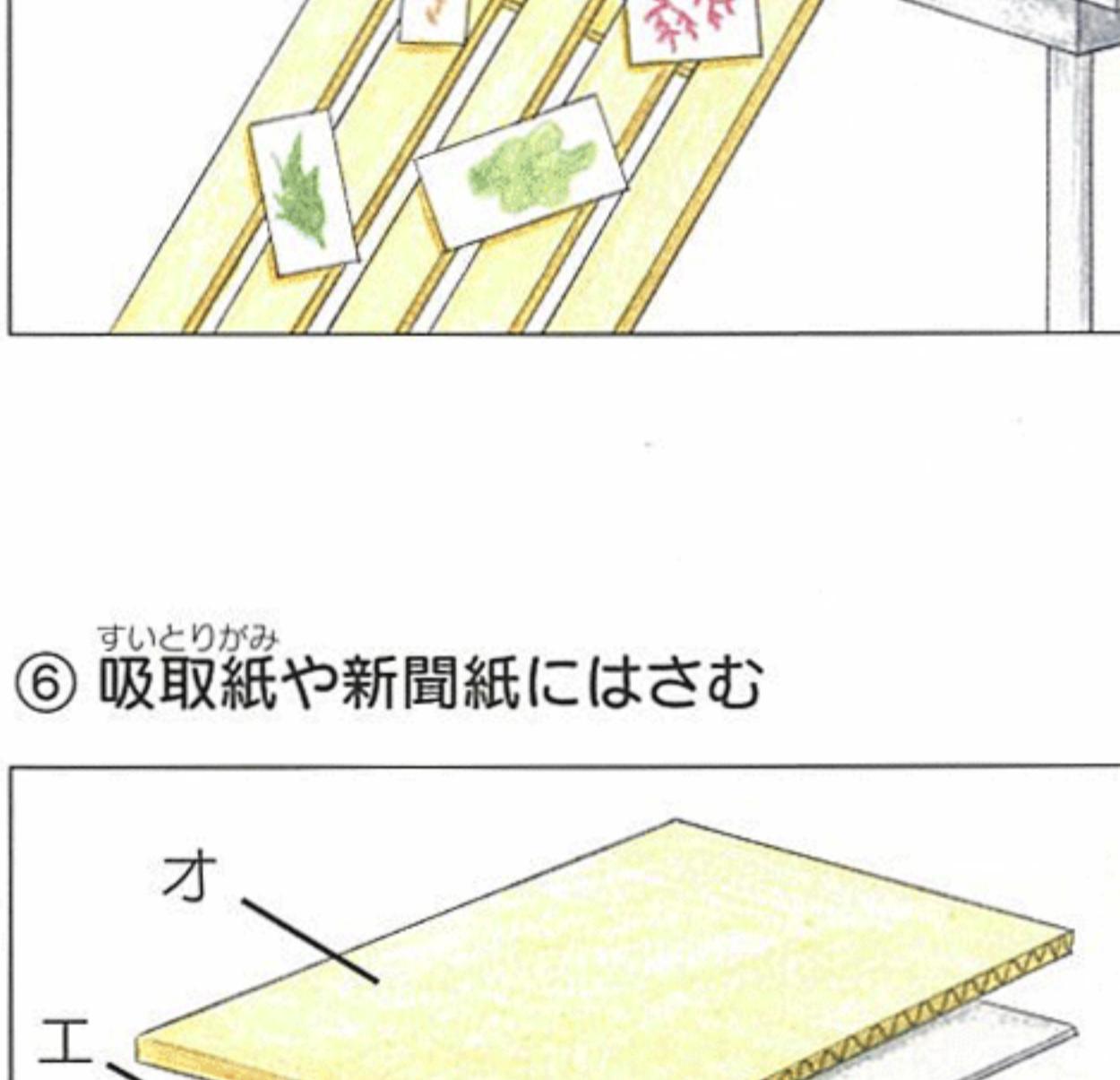
③ 塩抜き



採集したばかりの海藻や冷蔵庫から出した海藻を使う時は、水道水でゴミや砂を落とし、新しい水道水に浸しておきます。薄いものなら数分、厚いものでも10分ほどで塩が抜けますが、ホンダワラの仲間は時々水を替えながら一日以上浸しておき、茶色の渋を洗い流します。

冷凍保存した海藻は、水道水を流しながら解凍しますが、この間に塩分が抜けます。

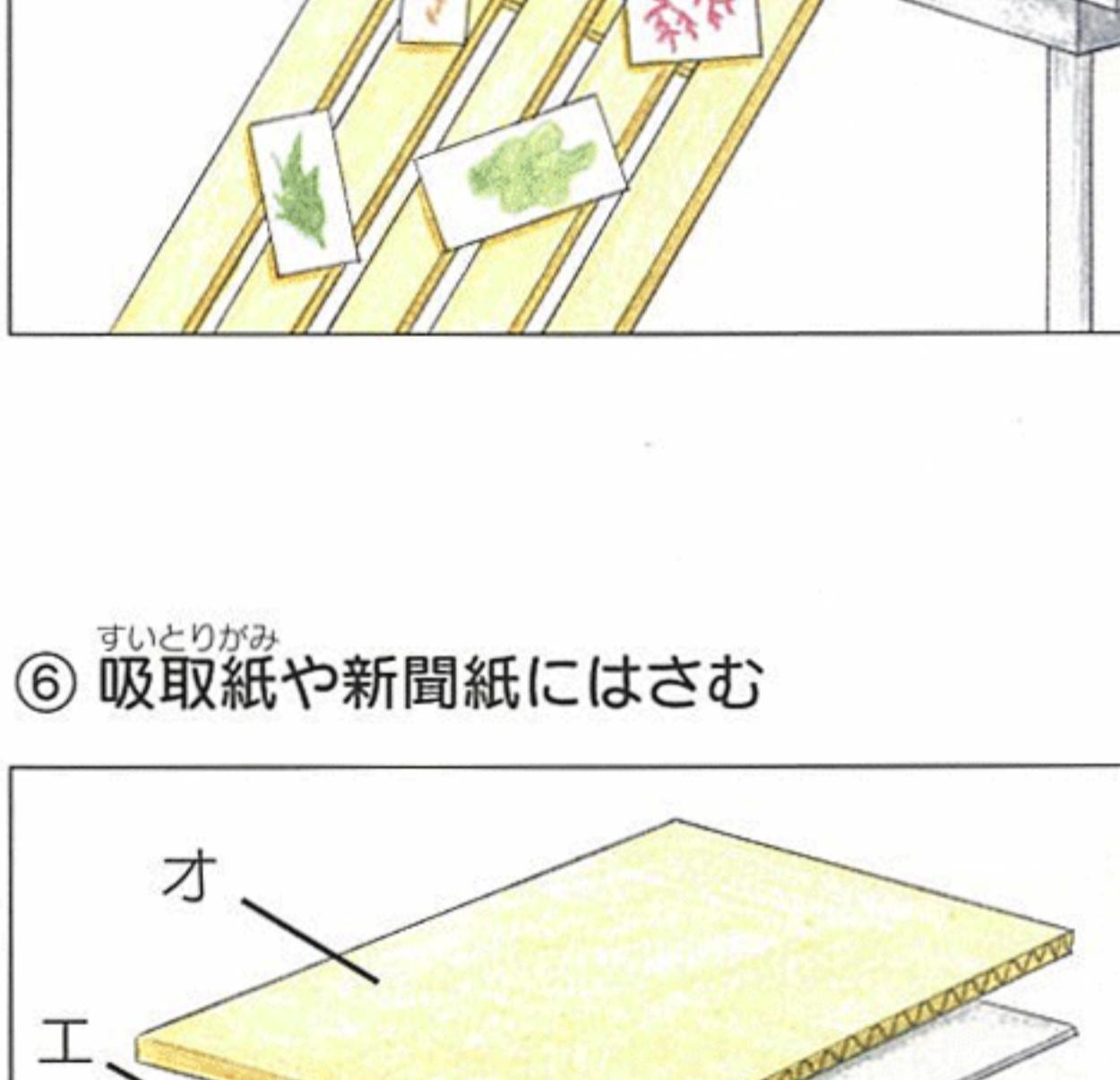
④ 海藻を台紙にのせる



バットなどに水道水を深めに張り、塩抜きをした海藻を入れ、その下に海藻よりひとまわり大きめの台紙を沈めます。

台紙と海藻を水面に浮かべるように手のひらで支えながら、ピンセットか楊子で海藻の形を整え、そのまま押し上げるにしてバットから出します。

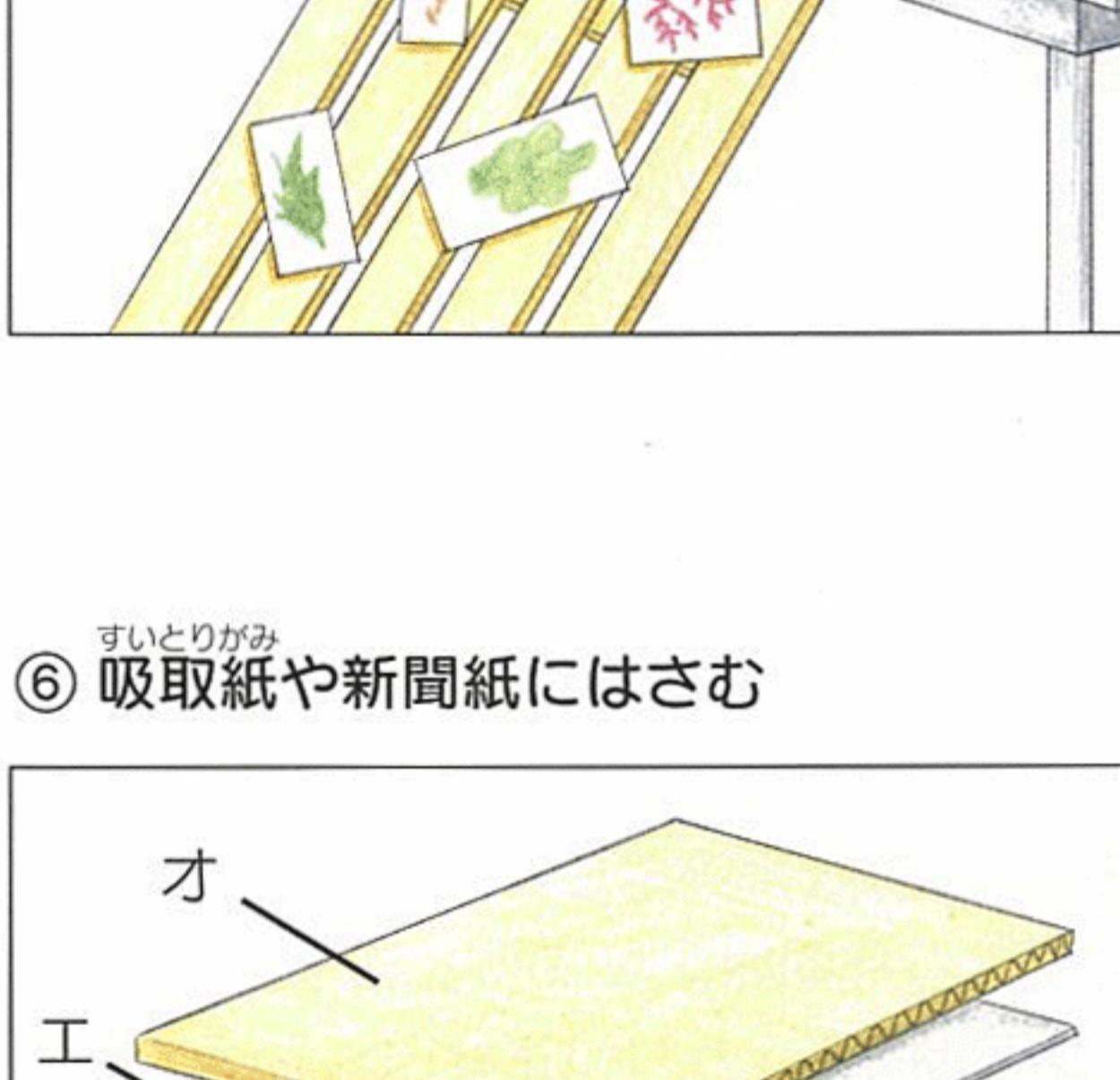
⑤ 水切り



すのこ板などを斜めにし、その上に海藻がのった台紙を置き、海藻や台紙の表面の水が垂れるのを待ちます。台紙は斜めに張ると、角から水が落ちやすくなります。

時間を長くすると、海藻が縮んだり、台紙が曲がったりするので、水切りは5分位を目安にします。

⑥ 吸取紙や新聞紙にはさむ

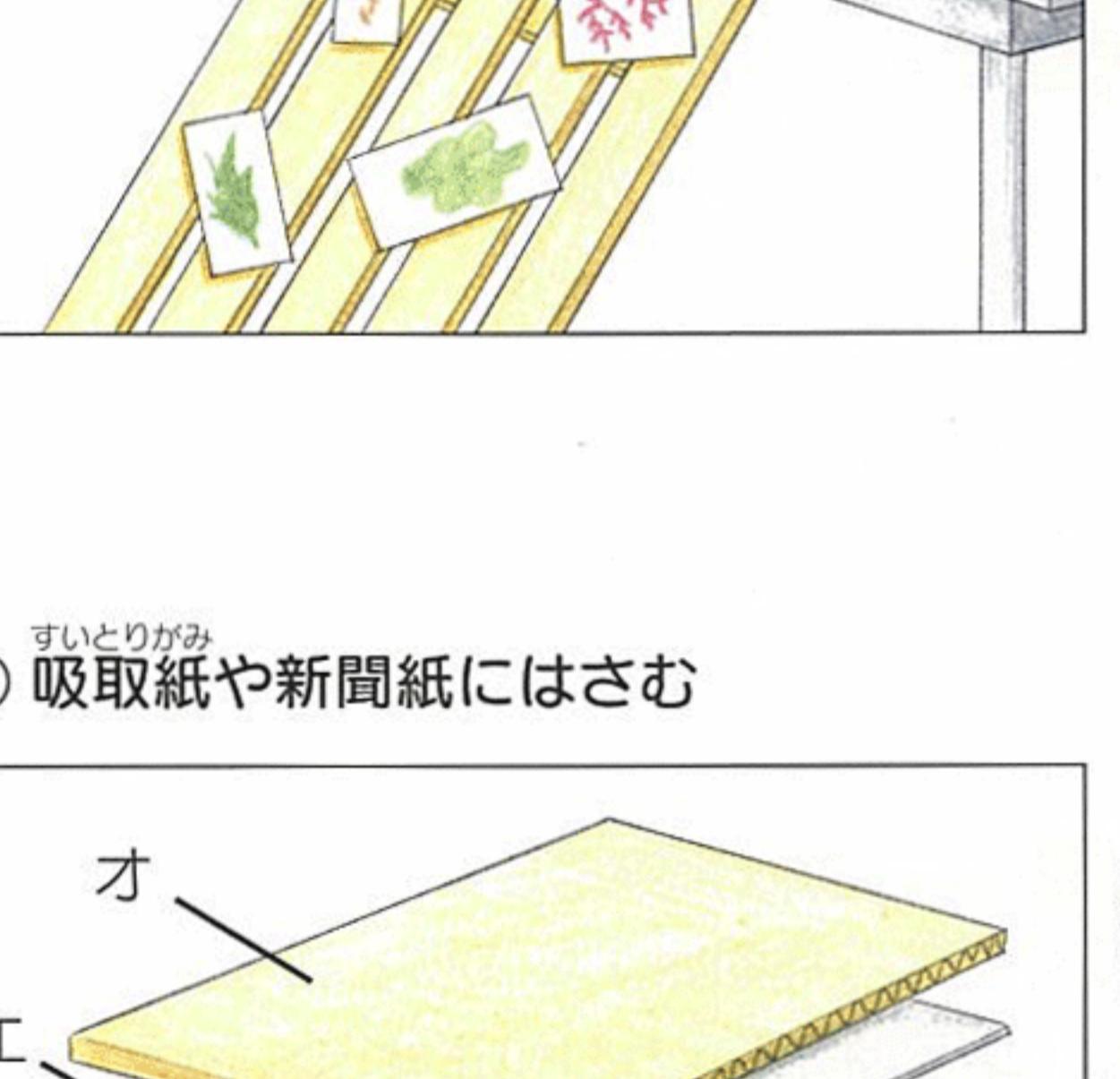


段ボール（ア）の上に吸収紙（イ）をのせ、その上に海藻がのった台紙を隙間なく並べ、さらにその上に布（ウ）、吸収紙（工）、段ボール（オ）を順に重ねます。

これを繰り返して、最後に厚い板をのせ、その上に重石をのせます。

布は海藻が上側の吸収紙に付くのを防ぐために使うのですが、ワイシャツ布地のようなもの（テトロン混紡など）が理想的です。

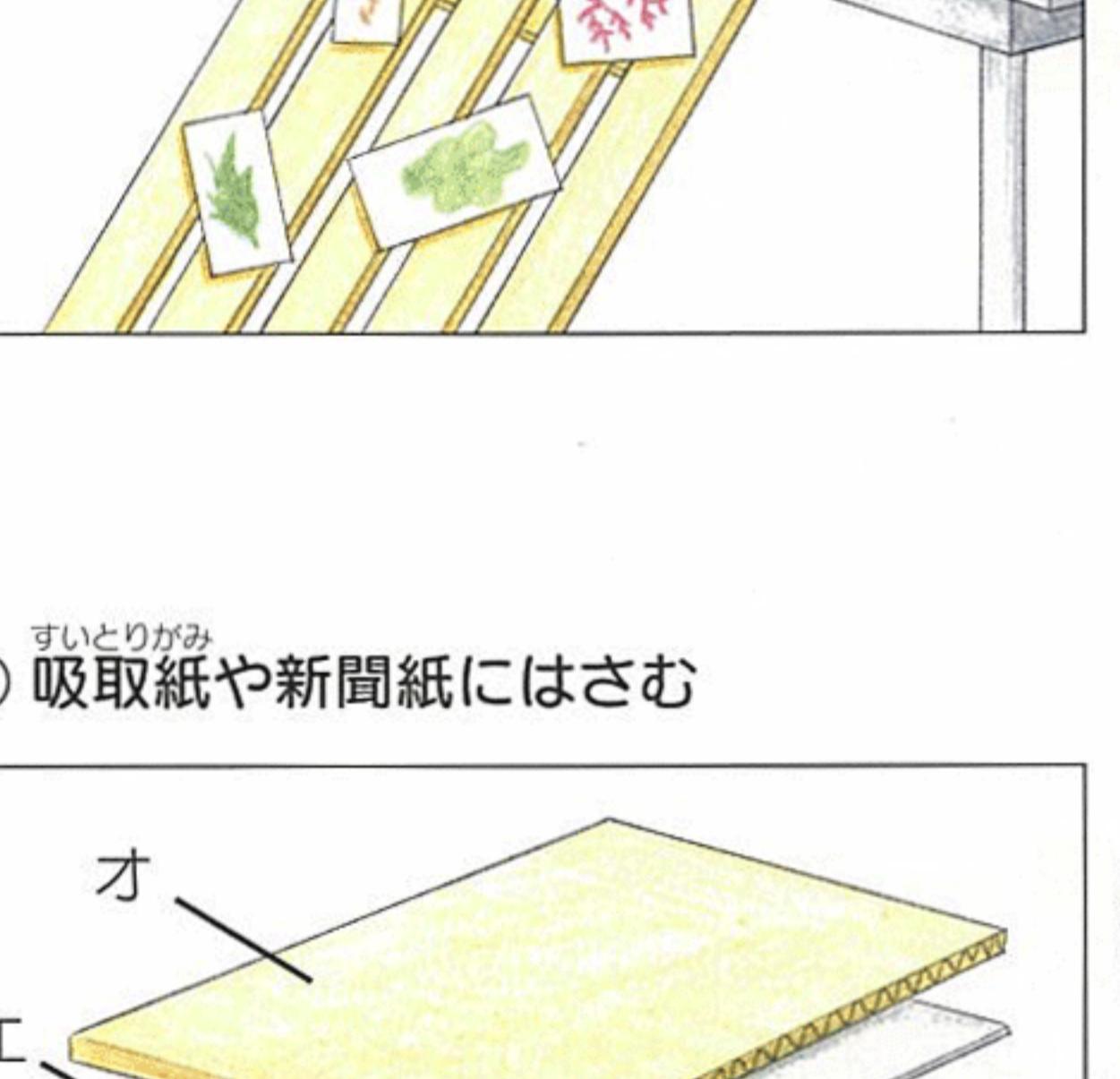
⑦ 乾燥



段ボールの目に向かって、扇風機で風を送ると、薄い海藻は一晩、かなり厚いものでも2～3日すると乾きます。

扇風機と段ボールを使わずに、吸収紙だけで押した場合は、吸収紙を朝夕毎に取り替えて、2～4日かかります。（海藻おしば乾燥機も考案され、市販されています。）

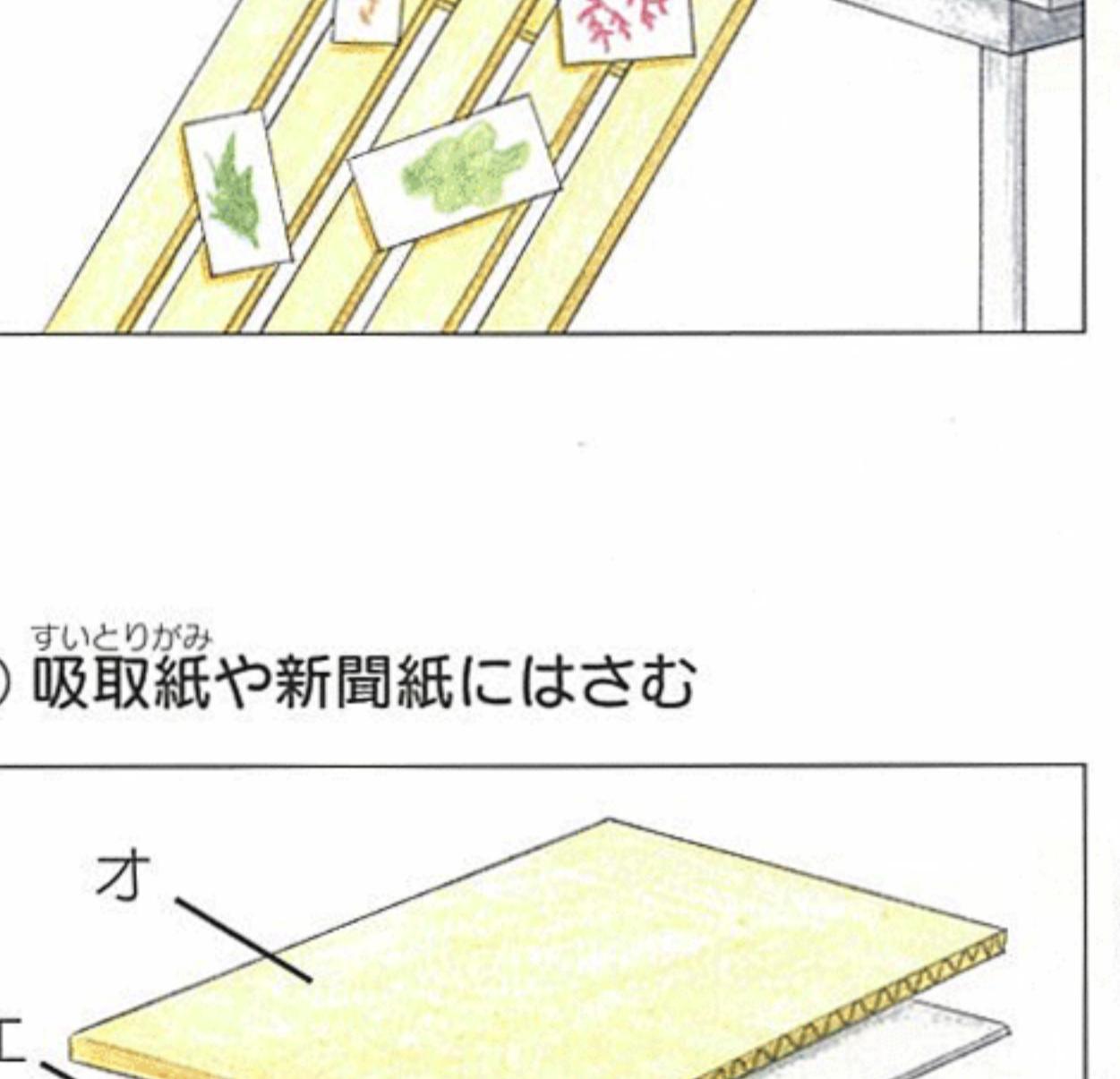
⑧ 完成



乾いたら、段ボールや吸収紙を取り除き、布をていねいにはがします。ほとんどの海藻は台紙にはり付いていますが、はがれたら、海藻の下に糊を楊子などで少し付け、布をかぶせて半日ほど押しておきます。

海藻が縮んだり、台紙にしづがけていたら、もう一度水に浸してから押しなおします。

⑨ 作品の保存



シオリなどの完成した作品は、身分証明書のようにラミネートすると、傷みにくくなり長期間保存することができます。（ラミネートをする小型機も市販されています。）

ハガキの一部に海藻をはった場合は、ブックカバーなどのフィルムをはると、郵送中の傷みを防げます。

額などに入れて飾る場合は、海藻の色あせを防ぐために、強い光のあたらない所を選んでください。

また、大事な作品はカラーコピーにして飾る方がよいでしょう。

(イラストは長谷川美喜子さんによる。)